

## 平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	県立広島大学				
取 組 名 称	学士力向上を図るフィールド科学の創設				
取組学部等	生命環境学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21087	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	体験活動	地域活性化			
キ ー ワ ー ド	総合力ある理系人材育成, フィールド科学, 地域組織・地域住民との連携, 中山間地域, 特産品				

### <選定理由>

本取組は、備北地方の豊かな自然と暮らしの知恵を背景として、過疎化の問題や一次産業と食糧生産の今後のあり方を考えていくことができる、総合力ある理系人材育成のため、農学、環境科学、生態学、社会科学を複合し、フィールドに根ざす実践を重視した学際的な学問、「フィールド科学」の創設を目指すものとして高く評価できる。

取組の具体的な内容面では、附属施設も活用した現場教育が充実しており、多彩なフィールドワークの実践を通じて、主体性・自発性のある学生の育成が期待できる。

しかし反面において、盛りだくさんの内容であるが故に、本取組が個々の学習や実践の単なる寄せ集めに終わることなく、体系化されたフィールド科学として纏りのある学習群として効果を上げられることに十分な注意が必要である。本取組によって、多様な文化を理解する力、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力、問題解決に向けての行動力の育成において大きな成果が上げられることを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

本取組は、県立広島大学生命環境学部が位置する庄原市を中心とした備北地方における中山間地域の自然とくらしの知恵の豊かさ、一方過疎化の問題や、農林業など一次産業と食糧生産の今後へのあり方を、グローバルな視点で考えていくことのできる力を備えた総合力ある理系人材育成のための、新たな体系的フィールド学習科目群（「フィールド科学」）の創設を目指すプログラムである。

大学を拠点とし、地域組織・地域住民との連携により地元に着した学生参加型教育を展開していくとともに、備北地域の豊かな自然とくらしの知恵を再発見、発信し、地域社会の抱える問題と、日本社会が抱える食育や地産地消、食糧自給、環境問題といった問題とをリンクさせて考えていく。また、学生たちの問題解決に向けた積極的な関与とベンチャーマインドの育成を図るため、地域ブランド・大学ブランドの開発にも取り組む。

本学部のアドミッションポリシーとして、「物事を主体的にとらえ、行動する人、常に問題の所在を考え、解決策を主体的、自発的に模索できる人の育成」を掲げている。主体性・自発性のある学生を育成する、すなわち学士力のアップのためには、学部が位置する地域（中山間地域）の特色を活かして行くことが有効である。このことは大学の理念である「地域に根ざした大学」にもつながる。すなわち、「中山間地域の自然と人的資源を活用し、学士力のアップを図るフィールド科学の創設」をテーマに以下のような取組を考えている。

- (1) 学部附属教育研究施設の食品加工場を利用した特産品加工・機能性食品の試作
- (2) 学部附属教育研究施設の圃場を利用した特産作物づくりと地域連携フィールド実習
- (3) 地域の自然・文化および環境の理解のための講義
- (4) 中山間地域における基軸産業である一次産業の現状および特徴の理解のための講義
- (5) 地域活性化のための様々な取組に関するデータベース、データマップづくり

本取組では、備北地域を中心とした中山間地域について、学生に、本学教員と地域の郷土史家の講義と、フィールドワークや農林業の現状や特産品のデータベース・データマップづくりにより、地域の自然の理解・第一次産業の理解をさせることを目指すとともに、過疎化のような現代の問題についても理解させ、そこに立脚して自然や伝統文化の中から、新たな観光資源、特産品づくりをしていこうとするものである。大学としても教育面のみならず、本学部附属教育研究施設や食品加工場の研究設備面からのバックアップを提供することができる。この取組によって地域や自然の理解、さらには企画・開発を通じての本学部のアドミッションポリシーにもつながる学士力向上につながる。学生側としても上記の活動を行うにあたって「さくらプランニング」や「ファーマーズハンズ」等の、地域支援に係るサークル活動実績があり、本プログラム遂行の基盤は整っている。こうした本取組の成果は地域に着した大学のひとつのモデルケースになることも期待される。

なお、取組によって向上を図る学士力としては、主に以下の能力の向上を期待する。

- (1) 地域の文化を深く理解する過程を通じて、多様な文化を理解する力の基礎を形成
- (2) フィールドワークを通じたコミュニケーション能力、リーダーシップ能力の向上
- (3) 問題を正しく認識し、その解決に向けて行動する力を育成
- (4) 研究室をベースに積極的にその知見を社会に還元できる、逞しい研究者の育成